

飯南町 国道 54 号活性化アクションプラン

平成 22 年 3 月 飯南町

飯南町 国道 54 号活性化アクションプラン
目次

本 編	
. 飯南町 国道 54 号活性化アクションプラン策定の背景と目的	1
- 1 . 背景	1
- 2 . 目的	1
- 3 . アクションプランの検討方法	2
- 4 . アクションプランの位置づけ	2
. 飯南町の概要	3
- 1 . 位置・沿革	3
- 2 . 自然条件	4
- 3 . 社会条件	5
. 飯南町の魅力と課題・町内外からの評価	9
- 1 . 飯南町の魅力と課題	9
- 2 . 飯南町の魅力と課題に対する町内外からの評価	16
- 3 . 「54 号の活性化」に向けて鍵となる資源	17
. 地域資源を活用したプロジェクト化の可能性	18
- 1 . プロジェクト化の可能性検討の視点	18
- 2 . プロジェクト化の可能性の検討	20
. 飯南町 国道 54 号活性化アクションプラン	23
- 1 . アクションプランの基本的な考え方	23
- 2 . 基本方針	25
- 3 . アクションプランの推進体制	26
- 4 . アクションプラン	28
- 5 . アクションプランの推進と進捗管理	36
資 料 編	
資料 . 「国道 54 号の持続的活用を考える飯南の会」について	資 - 1
1 . 委員名簿	資 - 1
2 . 検討経緯	資 - 2
資料 . 「飯南町まちづくりトーク」について	資 - 3
1 . 出席者名簿	資 - 3
2 . 検討経緯	資 - 5
3 . 検討結果	資 - 6
資料 . 参考事例 (国道 29 号周辺 兵庫・鳥取地域振興協議会の取り組み)	資 - 25

・飯南町 国道 54 号活性化アクションプラン策定の背景と目的

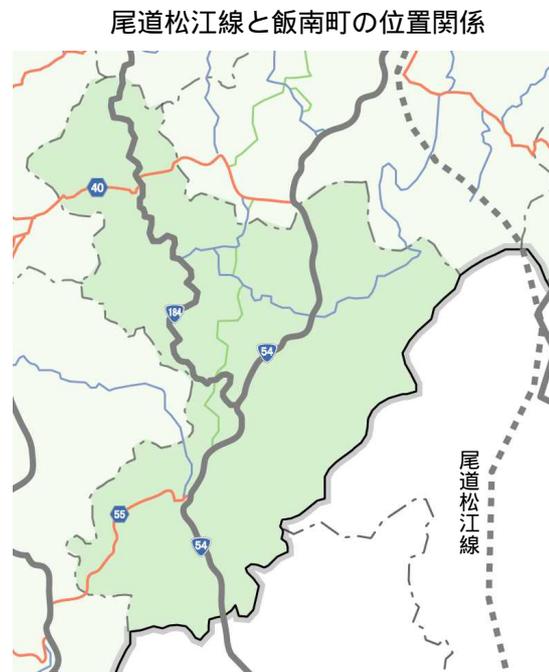
- 1 . 背景

飯南町（以下、本町）は、平成 17 年 1 月の飯石郡頓原、赤来両町の合併以後、まちの目指す基本理念に「小さな田舎からの「生命地域」宣言」を掲げ、総合振興計画や産業活性化ビジョン等に基づきながら、各種施策を展開してきました。

しかし、本町の人口・世帯数は減少傾向が続くとともに、若者の流出により高齢化率が 40% 近くとなるなど、多くの課題を抱えています。

さらに、現在、国土交通省の直轄事業として、中国横断自動車道尾道松江線（平成 25 年頃完成予定）の整備が進められています。この高速道路が開通することにより、山陰と山陽の時間的距離が短縮され、物流や観光振興への効果が期待されます。一方、従来の広島 - 松江・出雲間の幹線道路であり、本町の大動脈ともいえる国道 54 号の交通量は激減することが予測され、本町経済へ及ぼす影響が懸念されることです。

こうした状況の中で、尾道松江線の整備を見据えたまちづくり・地域づくりが求められています。



- 2 . 目的

国道 54 号は、町民にとっての重要な生活道路であることはもちろん、本町を訪れる観光客にとっての主要なアクセスルートであり、町内を移動する際の基準となります。したがって、尾道松江線整備後も、国道 54 号を持続的に活用するための方策を検討することは、飯南町全体のまちづくりや地域づくりを検討することにつながります。

そこで、国道 54 号の持続的な活用方策を検討するとともに、それらを実践するための具体的な行動計画として、「飯南町 国道 54 号活性化アクションプラン（以下、アクションプラン）」を策定します。

アクションプランに掲げる取り組みを、町民主導により実践し、それを里山コミッションや本町が積極的に支援・コーディネートします。そうすることで、飯南町の目的地としての魅力向上、町民の交流促進、町内外の交流促進等を目指し、尾道松江線整備を見据えたまちづくりを、町民・事業者・行政が一体となって進めていくことを目的とします。

- 3 . アクションプランの検討方法

アクションプランは、学識経験者、町民、町内事業者、町外専門家等からなる「国道 54 号の持続的活用を考える飯南の会(以下、委員会)」による 5 回の検討を踏まえて策定しました。

また、町内外住民の、本町が持つ魅力の活用方策や課題の解決方策、それらの具体的なアイデア等を把握するため、ワークショップ形式での「飯南町まちづくりトーク」を 2 回開催し、アクションプランに反映すべく様々な意見をいただきました。

(委員会及びまちづくりトークの開催状況、検討結果等は資料編に示します。)

委員会の様子



まちづくりトークの様子

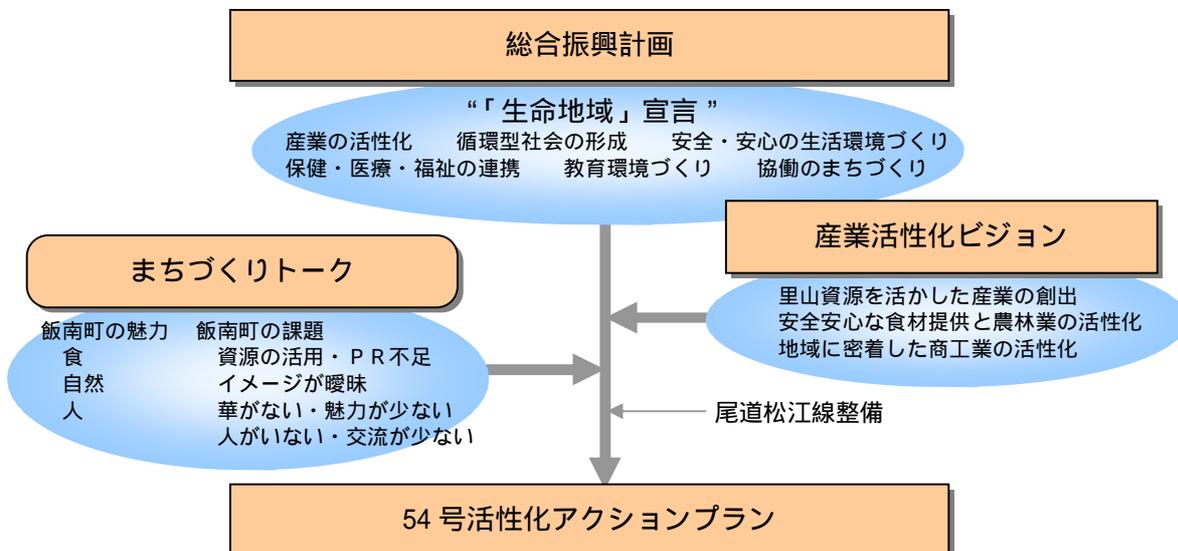


- 4 . アクションプランの位置づけ

本町のまちづくりにおいて最上位に位置する計画が「総合振興計画」にあたり、「生命地域」を目指したあらゆる分野での施策の方向性が示されています。また、総合振興計画を、産業振興の面から具体化するものが「産業活性化ビジョン」にあたります。

アクションプランは、これら既存の計画を、まちづくりトークでの検討を参考としながら、国道 54 号の持続的活用方策に着眼した、町民主導の計画にあたります。

54号アクションプランの位置づけイメージ



. 飯南町の概要

- 1 . 位置・沿革

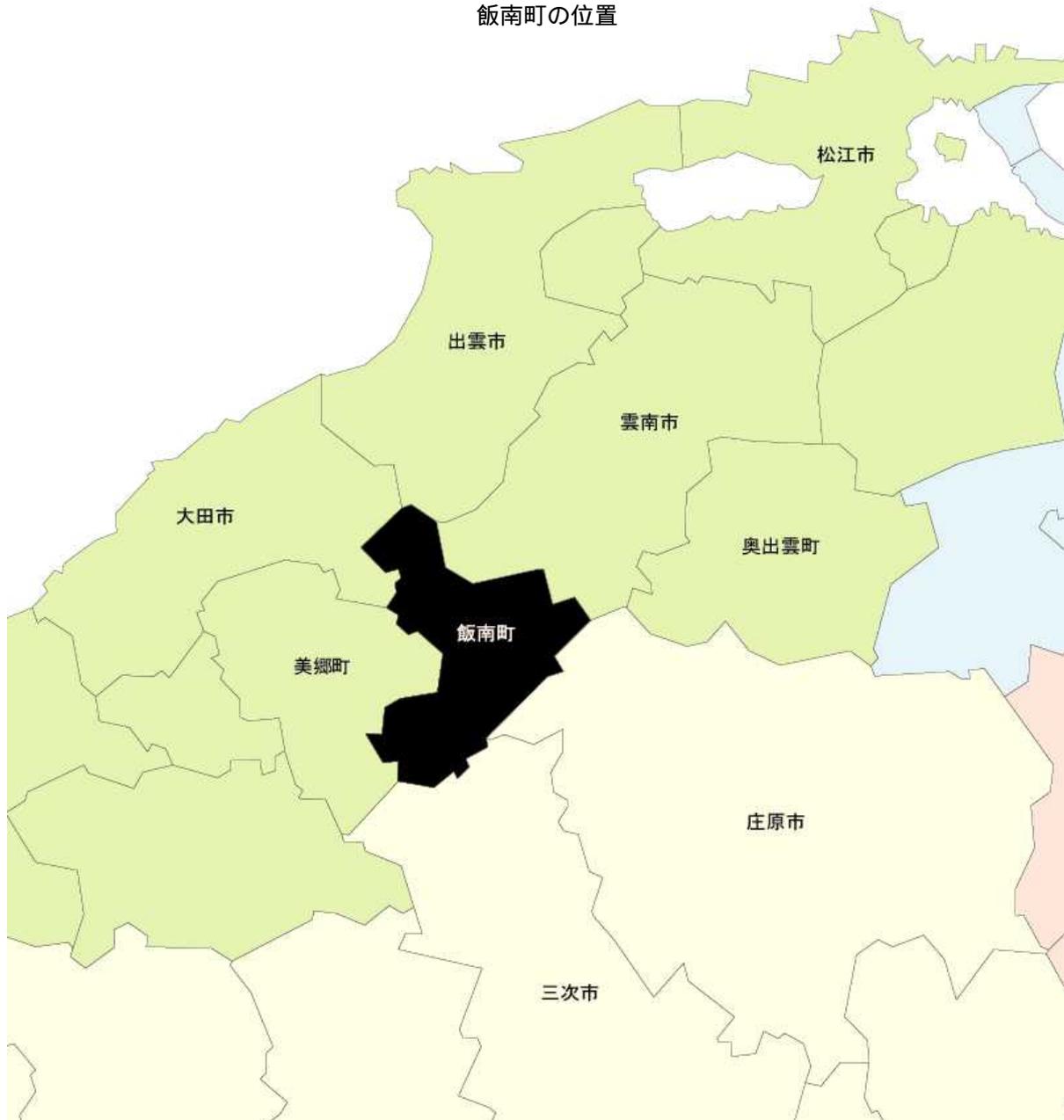
本町は、広島県と島根県の県境に位置し、東を島根県雲南市、北を出雲市、大田市、西を美郷町、南を広島県庄原市、三次市と接しています。

中国山地のほぼ中央に位置し、北西には大山隠岐国立公園三瓶山、東には大万木山などの山々が連なる、緑豊かな高原のまちです。

江戸時代には出雲、石見、備後の三国にまたがる陰陽交通の要衝として、石見銀山からの幕府の銀の輸送などが盛んに行われ、街道の宿場町として栄えました。また、たたら製鉄や良質米の産地としても知られていました。

平成 17 年 1 月の頓原町と赤来町の合併により飯南町が誕生し、現在に至っています。

飯南町の位置

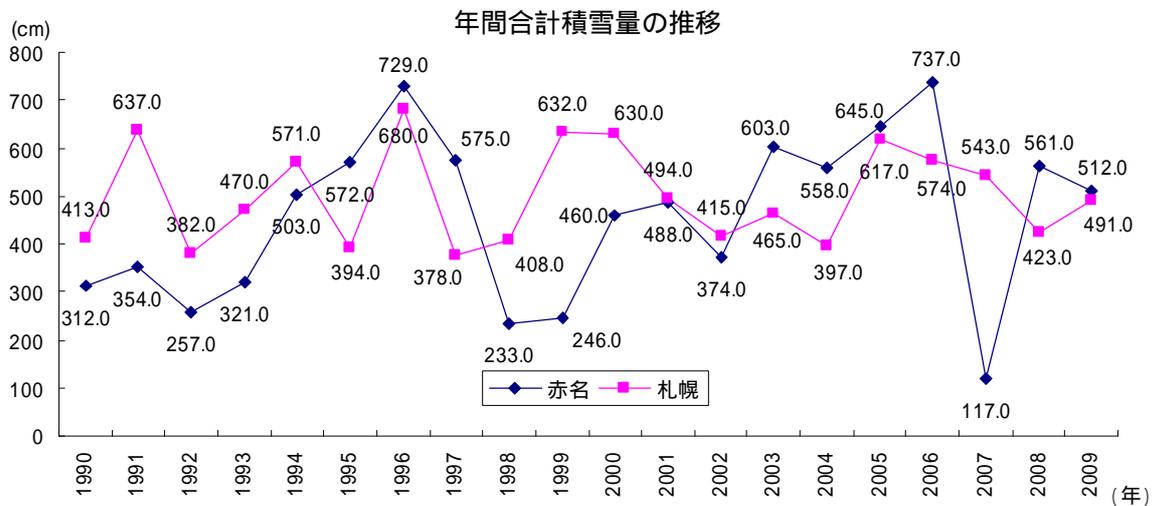
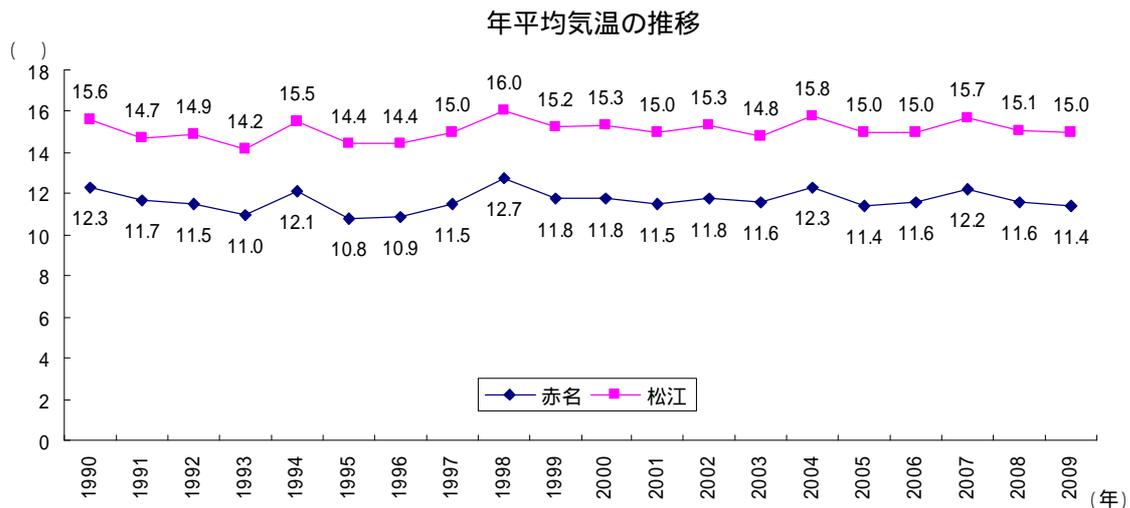


- 2 . 自然条件

(1) 気候

本町の年間平均気温は 11 から 13 となっており、県下でも有数の高冷地帯です。県庁所在地である松江と比較して、年間平均気温は約 4 低く、冬は寒さが厳しく、逆に夏は過ごしやすい気候となっています。

また、積雪量は県下で最も多く、年間合計積雪量では札幌を上回る年もあります。



資料：気象庁「気象統計情報」
「赤名」「松江」「札幌」はアメダス観測地点

(2) 土地利用

本町の総面積のうち、9 割を超える約 91%を山林原野等が占めています。

飯南町の土地利用面積・割合

土地利用	総面積	田	畑	宅地	池沼	雑種地	山林原野等
面積(k m ²)	242.84	14.04	2.17	1.80	0.08	3.92	220.83
構成比(%)	100	5.78	0.89	0.74	0.03	1.61	90.94

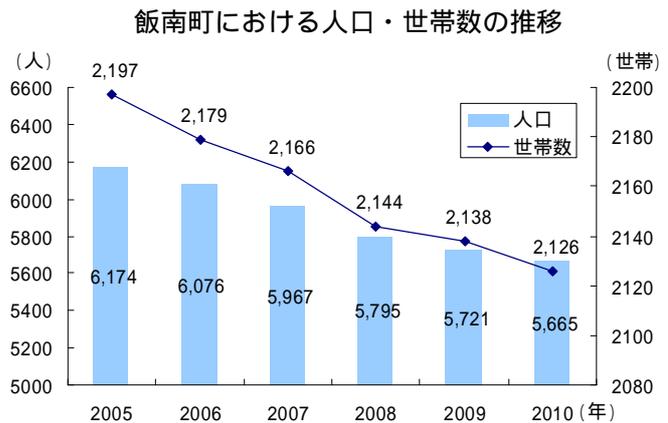
資料：飯南町調べ（平成 21 年 1 月現在）

- 3 . 社会条件

(1) 人口・世帯数

2010年3月1日現在、本町の人口は5,665人、世帯数は2,126世帯となっています。

ともに、近年は減少傾向が著しい状況となっています。



資料：住民基本台帳

(各年4月1日現在。2010年は3月1日現在。)

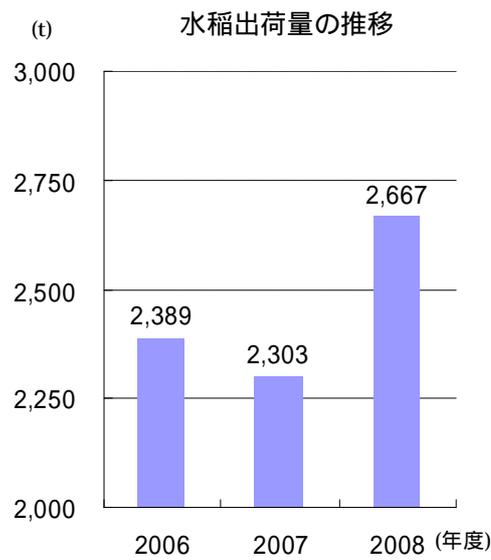
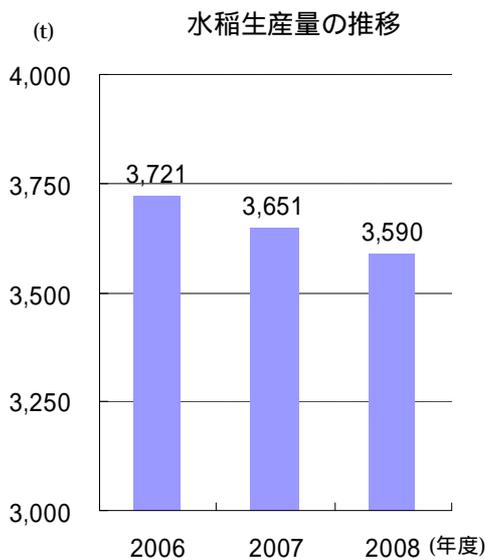
(2) 農業

本町では、県下の「良質米」の産地、「島根和牛の本場」として現在の農業が築かれてきました。また、果樹や高原野菜の栽培も盛んであり、寒暖の差による品質の高い農産物が生産されています。

近年では、農業の担い手の高齢化や後継者不足などにより、水稻の生産量は減少傾向にあります。一方、メロンやトマトについては生産量が若干増加しています。ぶどうについては、近年、生産量が飛躍的に増加しています。

これらの農産物については、飯南町産業活性化ビジョンに基づいて、飯南町産品のブランド化、他地域との差別化を図るため、特に本町ではヤマトイモと高原野菜の栽培に力を入れています。

また、ぶなの里などの産直市でこれらの農産物を販売し、本町を訪れる人たちへ、本町の食がもつ魅力を発信しています。



資料：飯南町調べ

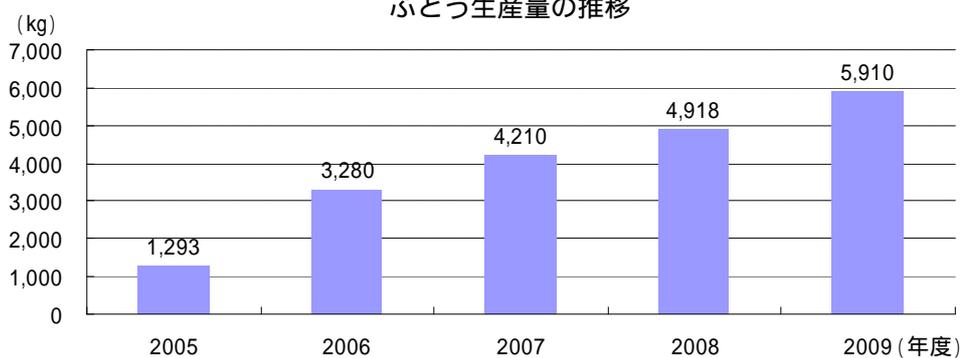
野菜類の生産量・出荷量の推移

(t)

年度	メロン		トマト		ほうれん草		サヤインゲン	
	生産量	出荷量	生産量	出荷量	生産量	出荷量	生産量	出荷量
2006	91.0	78.7	70.0	36.3	11.0	7.5	10.5	9.0
2007	80.0	68.9	50.0	39.8	10.5	7.8	6.5	5.4
2008	81.6	68.0	52.0	43.5	9.5	7.0	7.5	6.2

資料：飯南町調べ

ぶどう生産量の推移



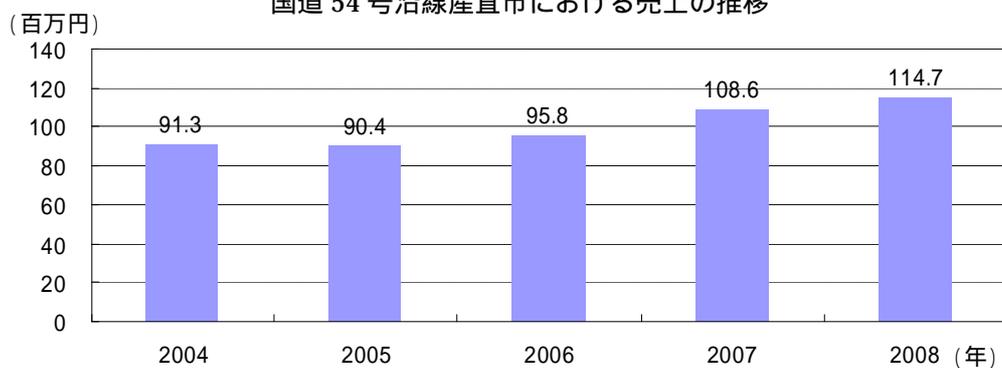
資料：飯南町調べ

ヤマトイモ生産量の推移



資料：飯南町調べ

国道 54 号沿線産直市における売上の推移



資料：飯南町調べ

(3) 観光

豊かな自然資源を活かしたスキー場や、ポピー祭・コスモス祭などの会場となる東三瓶フラワーバレー、観光ぼたん園などが立地しています。

また、本町の大動脈である国道 54 号の南北に 2 つの道の駅が立地しており、飯南町の玄関ともいえる役割を果たしています。

平成 20 年の観光客数は 242,371 人となり、近年は 25 万人前後で推移しています(島根県観光動態調査結果)。

飯南町における主な観光資源位置図



注) 地図上の施設は島根県観光動態調査掲載施設

(4) 交通基盤

本町を南北に縦断する形で国道 54 号が縦断しており、山陰と山陽を結ぶ重要な役割を担っています。国道 54 号を利用することで、本町は島根県の県庁所在地である松江市、広島県の県庁所在地である広島市とともに、約 90 分程度の距離にあります。

出雲市方面に向けては国道 184 号が通っており、三瓶山や、世界遺産である石見銀山方面に向けては主要地方道川本波多線（県道 40 号）が通っています。

平成 25 年頃には、本町の東側に中国横断自動車道尾道松江線が整備される予定となっていますが、本町からのアクセス線は今のところ整備されていません。

飯南町及び周辺の主要な幹線道路網等



飯南町の魅力と課題・町内外からの評価

本町には、豊かな自然や歴史・文化に基づいた様々な魅力あふれる資源が存在しています。また一方では、中山間地域ならではの課題を抱えてもいます。

ここでは、委員会及びまちづくりトークにおいて出された本町の魅力及び課題を整理するとともに、それらに対する町内外からの評価を確認したうえで、「54号の活性化」に向けて鍵となる資源をピックアップします。

- 1 . 飯南町の魅力と課題

1 . 委員会・まちづくりトークにおける検討結果から

飯南町の魅力や課題については、大きく「自然」「食」「人」「歴史・文化」「基盤・情報」の5つに整理されました。

(1) 飯南町の魅力

自然

本町は、総面積の9割以上を山林等が占めていることから分かるように、豊かな自然に恵まれています。琴引山や大万木山などの山林・森林、四季の彩り、雪などが自然の魅力として挙げられています。また、これらによって形づくられる山頂からの景観、神戸川源流の地、赤名峠や、自然を活用して癒しの場を提供する温泉や県民の森、登山、スキー場なども挙げられました。



県民の森

食

高い標高や寒暖の差等によって形づくられる、ヤマトイモや高原野菜などの農産物、りんごやブルーベリーなどの果樹、また、これらを材料として作られる薬膳料理やとんぼろ漬け、みそなどの食が飯南町の魅力として挙げられました。これらのおいしい食をつくる体験の場・都市間交流の場としてのクラインガルテンも挙げられています。



ヤマトイモ

人

地域住民同士のつながりが深く、人情豊かであることが魅力として挙げられています。また、UIターナーを暖かく迎える雰囲気があることも挙げられました。

歴史・文化

石見銀山から広島へと続く中で飯南町を通る銀山街道、かつて宿場町として栄えた赤名宿などの歴史資源が飯南町の魅力として挙げられました。また、地域の伝統文化である祭りについても、その魅力として挙げられています。



秋祭り

基盤・情報

島根県と広島県の県境に位置し、山陰地方と山陽地方をつなぐ大動脈である国道 54 号が通過していることから、松江市、広島市のいずれにも車を利用すれば 90 分程度で到着できる立地条件が魅力の 1 つとして挙げられています。



国道 54 号

飯南町の魅力

カテゴリー	魅力や活用できる資源
自然	源流（水）、四季の彩り、山・山頂からの景観（琴引山、大万木山）、峠（赤名、頓原、草峠など）、森林（県民の森）、登山・トレッキング、里山、温泉（加田の湯、ラムネ温泉）、高原（夏涼しい）、雪、スキー場
食	ヤマトイモ、高原野菜、米、りんご、ブルーベリー、イノシシ、ワニ料理、薬膳料理、やまめ、とんぼら漬け、みそ、クラインガルテン
人	暖かい人（部外者にやさしい）、人情豊か、近所つきあい
歴史・文化	銀山街道、赤名宿、お祭り（秋まつり）
基盤・情報	交通利便性（広島へ 90 分、松江・出雲へも 90 分）

(2) 飯南町の課題

自然

魅力としても挙げられた雪については、特に地域に暮らす住民にとっては雪かきの必要性等から課題としても挙げられました。同様に、冬季の寒さと長さについても課題として挙げられています。



雪かき

食

多様な農産物や果樹等が魅力として挙げられた中で、飯南町として特に強力にアピールできるものがないという課題が挙げられています。

人

町全体の人口減少、少子高齢化という問題を抱える中で、若い人が少ないことが課題として挙げられています。さらに、若い人同士の交流が少ないことも課題として挙げられています。



リーダー塾

歴史・文化

多様な歴史・文化資源を有する中であって、街並みに飯南町としての個性がないという課題が挙げられました。



頓原の街並み

基盤・情報

情報提供や PR が不足しており、外部から見た飯南町のイメージが曖昧であるという課題が挙げられました。実際には里山コミッションを中心としてホームページ等を活用した情報提供は行われていますが、ターゲットとする客層・地域の明確化など、PR 戦略の不足がこうした課題につながっていると考えられます。また、特に町内住民にとっては脆弱な公共交通や医療施設の不足などが、生活を守ることに直結する課題として挙げられています。



さとやまにあ HP トップ

飯南町の課題

カテゴリー	課題や負のイメージ
自然	雪、寒い、冬が長い
食	おいしいもの（これといったもの）がない
人	人口減少、若い人が少ない、若者の集い、魅力のある人
歴史・文化	街並みに個性がない
基盤・情報	公共交通が脆弱、道路の定時性・安全性の向上、医療施設、PR・情報提供不足（戦略不足）、HP のクオリティ、イベント、華がない（強力なイメージ）

2．総合振興計画等で掲げられている飯南町の主要課題

地域資源を活用した産業の活性化

豊かな自然環境やその自然の中で育った水・空気・微生物など、資源を最大限活かしたまちづくりが求められています。

特に近年では、健康・環境意識の高まりや都市住民の農村志向の高まりがみられます。飯南町の特徴である自然資源を活かすとともに、町内の農林業や商工業など、すべての産業が連携することにより、広域的な交流を深め、産業の活性化、新たな産業分野への展開及び新たな雇用を創出していくことが必要となっています。

環境の保全・活用、循環型社会の形成

地球規模で問題となっている環境問題をはじめ、飯南町においても不法投棄などのごみ問題や、河川の水質悪化などの自然環境問題を抱えています。

飯南町は、中国山地の山々や神戸川の源流などの自然の宝庫であり、環境の保全を推進していく必要があります。この自然を貴重な財産として活用し、持続可能な循環型社会の構築が必要となっています。

定住のための環境づくり

人口減少や少子高齢化が進行する中、空き家や高齢者世帯が増加しています。地域で支え合えるシステムの構築、UI ターン者などが安心して定住できる生活環境づくりが必要となっています。

また、子どもに対する防犯対策の強化、連坦地や急傾斜地における防災対策などを推進し、誰もが安全で安心して暮らせるまちづくりが必要となっています。

保健・医療・福祉の充実

保健、医療、福祉が連携したシステムづくりと地域と行政で支える体制づくりが求められます。

また、地域で助け合いながら、子育てしやすい環境づくり・居場所づくりを進めていくことも必要となっています。特に、人口の4割近くを占める高齢者への情報提供、災害時や緊急時への対応の強化が必要となっています。

地域と連携した教育環境づくり

心豊かで個性ある人材を育成するためには、学校教育だけでなく、体験学習や地域活動を通して、地域と一体的となった教育環境づくりが必要となっています。

また、地域との連携により様々な学習機会や活動への参加機会を設け、異世代交流を進め、飯南町の伝統的な文化を次世代へ継承していくことが必要となっています。

協働のまちづくりの推進

地方分権社会の推進により、飯南町の自主自立（律）に向けた行政改革が求められます。

そのため、住民と行政が役割を分担し合い、協働でまちづくりを進めることが不可欠になってきています。住民はまちづくりの主役として、自ら考えて行動する姿勢を持ち、行政は住民の自主的な行動を尊重し、支援していくことが必要となっています。

3. 住民意識調査結果から

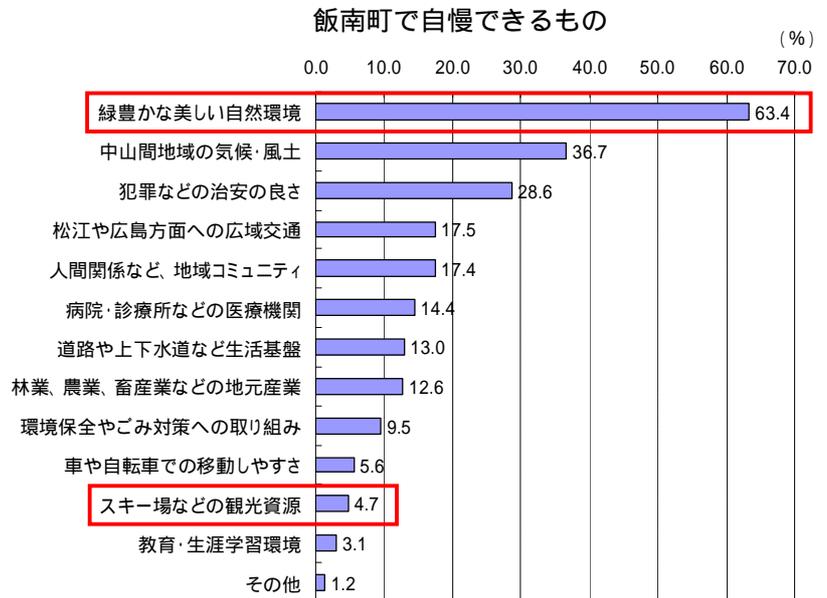
平成 17 年に行われた住民意識調査（配布 2,100 回収 817 回収率 38.9%）から、飯南町民が、地域資源等に対して抱いているイメージを下記に示します。

飯南町で自慢できるもの

「緑豊かな美しい自然環境」が 63.4%となっており、飛びぬけて高い回答率を得ています。

「スキー場などの観光資源」については 4.7%にとどまっています。

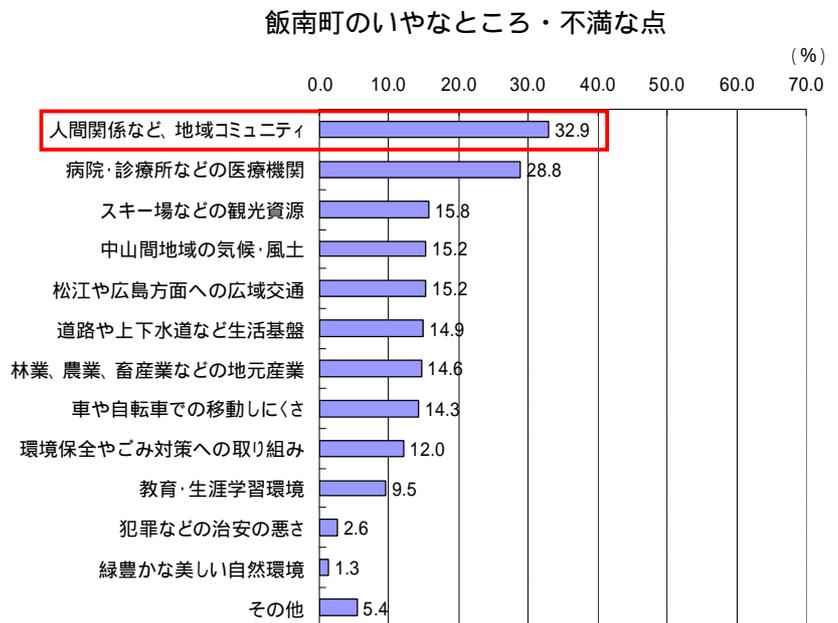
豊かな自然に対する評価が高い一方で、それらを活用したスキー場などの観光資源に対する評価は高くありません。



飯南町のいやなところ・不満な点

「人間関係など、地域コミュニティ」が 32.9%と最も高くなっています。

まちづくりトークでは「近所づきあい」が魅力の1つとして挙げられていましたが、特に町内住民にとって、近所づきあいが課題となる場合もあることが分かります。



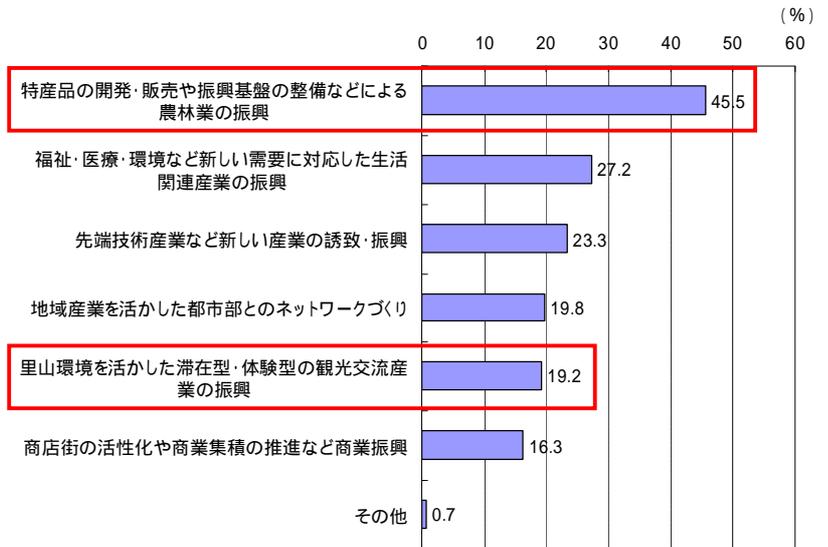
**産業振興・雇用拡大に関する重点
施策として期待するもの**

「特産品の開発・販売や振興基盤の整備などによる農林業の振興」が最も高く、45.5%となっています。

一方、「里山環境を活かした滞在型・体験型の観光交流産業の振興」は19.2%となっています。

自慢できるものと同様に、豊かな自然環境を活かした取り組みに対する期待は比較的低い状況にあります。

産業振興・雇用拡大に関する重点施策として期待するもの

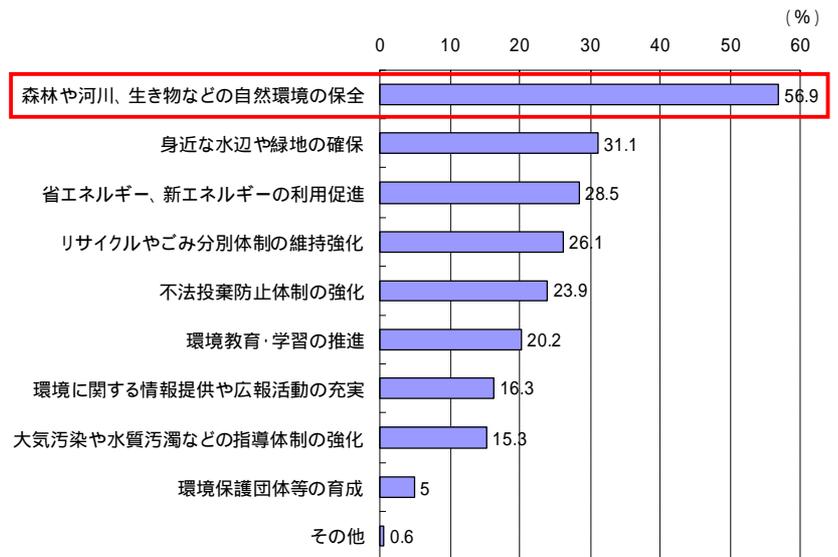


環境に関する重点施策として期待するもの

「森林や河川、生き物などの自然環境の保全」が56.9%と最も高くなっています。

豊かな自然に対する高い評価の結果を反映しているといえます。

環境に関する重点施策として期待するもの



4. 飯南町の魅力と課題のまとめ

アクションプラン策定過程において、委員会やまちづくりトークの中で、本町の魅力や課題を抽出しました。その結果、これまでの住民意識調査や総合振興計画においても挙げられているものと重複するものが多く挙げられています。また、町外からの目線を加えたことで、町民にとってプラス（マイナス）と考えていたものが町外からはマイナス（プラス）と捉えられているものもあり、これらを整理したうえで、アクションプランを策定する必要があります。

- 2 . 飯南町の魅力と課題に対する町内外からの評価

飯南町の魅力や課題である地域資源等について、委員会やまちづくりトーク等における意見を参考に、町内住民から見たイメージと、町外住民から見たイメージを重ね合わせました。

町内イメージ「+」 町外イメージ「+」の資源

町内住民からも町外住民からも、飯南町の魅力として認められた資源であり、今後の積極的な活用及び情報発信の推進が必要です。

町内イメージ「-」 町外イメージ「+」の資源

町内住民からは課題として挙げられるものの、町外住民からは飯南町の魅力と捉えられている資源にあたります。町内住民のコンセンサスを得ることが前提条件となりますが、町外からのニーズが高い資源として、活用方法の継続的な検討を行うことで、有効な地域資源として活用できる可能性があると考えられます。

町内イメージ「-」 町外イメージ「-」の資源

町内からも町外からも課題として捉えられている資源であり、重点的な取り組みにより、解決することが求められます。

内と外からの資源の評価

		町外からのイメージ	
		プラスイメージ	マイナスイメージ
町内からのイメージ	プラスイメージ	峠、森林、高原（温泉）、スキー場、四季の彩り りんご、薬膳料理、やまめ 山・山頂からの景観、登山・トレッキング温泉、里山、源流（水） ヤマトイモ、野菜、米、イノシシ、ワニ料理 とんぼら漬け、みそ クラインガルテン お祭り 暖かい人、人情豊か 銀山街道、赤名宿 交通利便性 積極的な活用及び魅力の発信	
	マイナスイメージ	雪（プラス） 雪景色がきれい、雪を見たい、スキーができる 雪（マイナス） 雪かきが日課、交通（時間、安全性）、災害懸念 近所づきあい 松江・広島へ 90 分の立地条件 活用に向けた継続的な検討	人口減少、若い人が少ない、若者の集い、魅力のある人 街並みに個性がない 公共交通が脆弱、道路の高速化・安全性の向上、医療施設、PR・情報提供不足（戦略不足）、HP のクオリティ、イベントが少ない 華（強力なイメージ）がない 重点的な取り組みの必要性

- 3 .「54 号の活性化」に向けて鍵となる資源

前頁までに整理した飯南町の魅力や課題、町民の考えなどから、アクションプランを策定するにあたって、キーとなる資源を下表に整理します。

キー資源等のキーワード項目の整理

キー資源		評価		内 容
		町内	町外	
自然	雪	-	+	雪、スキー場
	森林・山	+	+	森林セラピー、山・山頂からの景観、登山・トレッキング、里山、四季の彩り、峠
	温泉	+	+	加田の湯、頓原ラムネ温泉
	源流（水）	+	+	清流、やまめ、オオサンショウウオ
食	ヤモトイモ	+	+	ヤモトイモ、トロロ料理
	高原野菜	+	+	高原野菜（パプリカ、トマト等）
	果樹等	+	+	りんご、ブルーベリー、ぼたん等
	米	+	+	エコ米
	薬膳料理	+	+	薬草木、薬膳料理、ハーブ
	その他	+	+	イノシシ、ワニ料理、とんばら漬け、みそ
農業体験	+	+	クラインガルテン、各種農業体験	
歴史・文化	+	+	銀山街道、赤名宿、出雲国風土記、秋祭り	
人材発掘・育成	-	-	魅力的な人の発掘、プロモート、地域リーダー	
情報発信	-	-	HP、ネットショッピング、応援団	
基盤整備等	-	-	公共交通の利便性確保、安全性・高速化、高速道との接続強化	

地域資源を活用したプロジェクト化の可能性

アクションプランに掲げるプロジェクトを検討するうえでキーとなる資源について、既存の取り組み状況や外部との連携の可能性等を踏まえながら、プロジェクト化の可能性について検討します。

プロジェクト化にあたっては、町内の取り組み・連携促進はもとより、町外との交流促進についても考慮したものとします。

- 1 . プロジェクト化の可能性検討の視点

町内の既存の取り組みとのマッチング

魅力や課題等から整理した飯南町の「キー資源」は、既に総合振興計画や産業活性化ビジョン等の既存施策においても飯南町の重要な資源として、その積極的な活用方策が検討されているものも多く含まれています。

こうした既存の取り組みから、その継続に向けた重要性や不足している取り組みなどを確認することで、プロジェクト化の可能性を検討します。

町外地域との連携の可能性

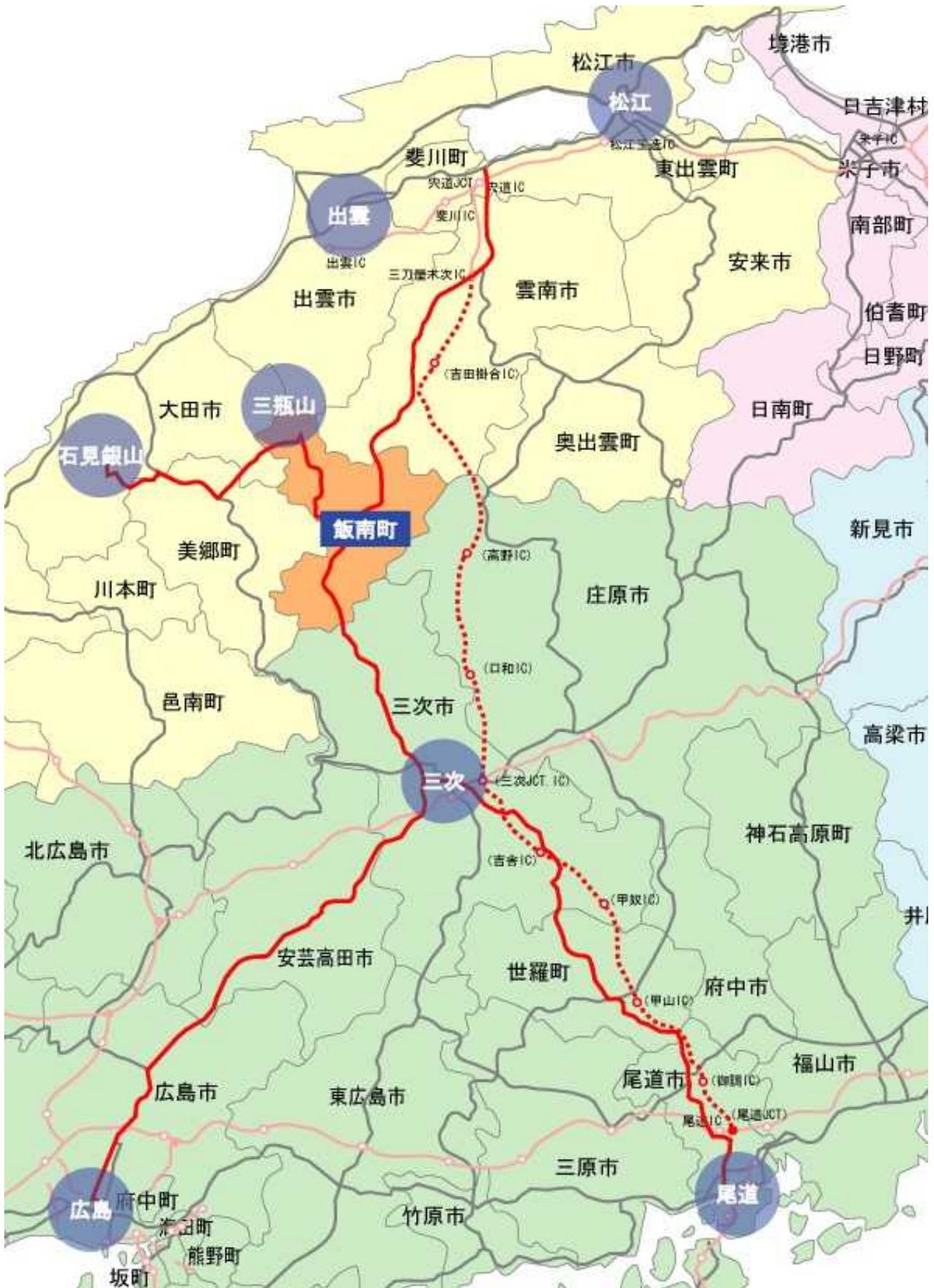
国道 54 号が持続的な発展を目指すためには、町内の連携・交流促進にとどまらず、広く町外・県外との面的な広がり（次ページ地図参照）を持った取り組みを実践することも求められます。

キー資源に関連する飯南町外の地域資源や取り組みにも着目し、飯南町と町外地域の相互交流によって国道 54 号の持続的な活用と発展に資することを考慮して、プロジェクト化の可能性を検討します。

新しいアイデアの活用

既存の取り組み、町外との連携の可能性を検討するとともに、委員会やまちづくりトークにおいて出された、キー資源を活用するための新しいアイデアについても考慮して、プロジェクト化の可能性を検討します。

飯南町との広域連携可能性を検討しうる地域・資源等とそれらをつなぐ主要路線図



- 2 . プロジェクト化の可能性の検討

キー資源等項目	評価		地域の現状	既存の取り組み		考えられる新たな取り組み(アイデア)	備考・課題等	プロジェクト化の可能性	
	内	外		町内	連携				
自然	雪	-	+	<ul style="list-style-type: none"> 札幌より多い降雪量。 降雪量は増えているが雪の質が変化している、一気に降って一気に溶ける。 農家にとって降雪は死活問題。 雪は「白い悪魔」。 	<ul style="list-style-type: none"> 国道 54 号など幹線道路の除雪作業。 スノーレンジャー(谷地区)(小型除雪機を使った高齢者宅などのボランティア除雪作業。谷自治振興会の有志 17 名による。) 県民の森でのスノーシュー、親子でかまくらづくり、かんじき体験(雪の中での森林セラピー)。 	<ul style="list-style-type: none"> 奥出雲町:町と社会福祉協議会による除雪機無料貸し出し。 浜田市:旭町商工会内に島根県雪合戦連盟がある。毎年全国雪合戦連盟公認の島根県雪合戦大会を開催している。アサヒテングストーンスキー場。 広島県庄原市:庄原市役所内に広島県雪合戦連盟がある。毎年全国雪合戦連盟公認の広島県雪合戦大会を開催している。かまぐら山のロウソクによるライトアップイベント。スキー大会。 広島県福山市:広島県雪合戦連盟福山支部 北広島町、廿日市市などスキー場多数。 	<ul style="list-style-type: none"> 雪を売る、雪を活用した保存。 雪で保存した野菜の提供。 かまくらづくり、雪合戦、雪像づくりイベント。 国道沿いにかまぐらや雪像を設置。 地域づくりリーダー塾での雪活用プロジェクトの開催。 	<p>コンセンサスづくり。</p> <p>若者の遊び心(コミュニケーション形成)。</p>	<p>雪は飯南町を代表する資源。スキー場を除いて、雪を活用した目だった取り組みは未着手。町内住民の意向を踏まえたうえでプロジェクト化の可能性があると考えられる。</p> <p>また、町外住民にとって魅力的な資源であることに着目し、町内外交流のツールとして活用できる可能性が高い。</p>
	森林・山	+	+	<p>森林セラピー(+県民の森)(産業振興ビジョン重点項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林を科学的・医学的に解明し、根拠に基づいたプログラムによる心と体の癒しの提供。 H20 来訪者約 800 名。H21 の来訪者数は減少傾向にあるが客単価はあがっている。 町民の利用及び認知度は低調。 第三種旅行業登録。 <p>琴引山・大万山・毛無山・女亀山等</p> <ul style="list-style-type: none"> 県民の森を中心とした登山コース。 島根県内最大のブナの森。 <p>豊富な木質バイオマス</p> <ul style="list-style-type: none"> 飯南町バイオマスタウン構想の策定。 施設園芸ハウスでの薪ボイラー活用。 	<p>森林セラピー</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林セラピーガイドによる森林散策。 町内農産物による薬膳料理の提供。 温泉と宿泊を連携させた健康ツアー。 企業の福利厚生への活用。 セラピーガイド養成講座の開催(H21 はセラピスト 2 名、ガイド 11 名を認定予定) H22 から、県民の森研修館において医療機関と連携した取り組みを行う予定(H22.7 リニューアル予定)。 県民の森フェスティバル(年 1 回開催。エコサイクリング、カヌー体験、ツリークライミング等を実施)。 <p>琴引山・大万山・毛無山等</p> <ul style="list-style-type: none"> 山開きにあわせて、大万山で毎年ブナ林観察会を実施。 東三瓶フラワーバレーにおいて、毎年ポピー祭(6月)コスモス祭(10月)を開催。 琴引フォレストパークキャンプ場近くから大万木山を目指す「飯南ヒルクライム 2009」を開催。 <p>豊富な木質バイオマス</p> <ul style="list-style-type: none"> 林地残材等を公共施設の薪ボイラーの燃料として活用している。 	<p>森林セラピー</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国の 38 箇所に認定されている「森林セラピー基地」の一つ。 中国地方では、他に鳥取県智頭町、岡山県新庄村、山口県山口市にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市部(出雲・松江)の子どもとの交流・体験学習。 アウトドア講習会(アウトドア達人)。 自然塾の開催。 避暑地ツアー。 自然・温泉・食の連携ツアー(癒しツアー) 医療との連携によるセラピーメニュー開発。 	<p>体制づくり、人材の育成。</p> <p>セラピー参加者には高評価であるが、さらにバージョンアップしたセラピー食の提供が課題。</p> <p>利用者増加のための新たなメニューづくり。</p> <p>島根県から飯南町に譲渡される研修館の活用方法検討。</p>	<p>森林セラピーでの「癒し」の場提供が積極的に行われている。セラピーと温泉やトレッキング、クラインガルテンでの農業体験による都市間交流などをセットにして PR しアピール力を高めることや、旅行商品の開発などにより、中期的な取り組みとしてのプロジェクト化の可能性があると考えられる。</p> <p>特に、森林セラピーによる「癒し」の場の提供は、飯南町が推進する最重要施策の 1 つであり、これを核としたプロジェクト化は、既存施策との整合、継続展開に向けて重要と考えられる。</p> <p>利用者増加に向けた新たなメニューについては継続的に検討し、必要に応じてマーケティング調査などを実施する必要がある。</p>
	温泉	+	+	<ul style="list-style-type: none"> 加田の湯。 頼原ラムネ温泉(源泉かけ流し) 光明石温泉。 	<ul style="list-style-type: none"> ラムネ温泉の炭酸泉は明治時代には飲用として出荷されていた。 森林セラピーツアーとセットでの案内。 	<ul style="list-style-type: none"> 炭酸泉など類似温泉との連携。 周辺の温泉:波多温泉、千原温泉、三瓶温泉等。 	<ul style="list-style-type: none"> 温泉学会。 興味を引くようなネーミングなど。 自然・温泉・食の連携ツアー(癒しツアー) 	<p>利用者が横ばい状態。</p>	
	源流(水)	+	+	<ul style="list-style-type: none"> 女亀山に神戸川の源流。 斐伊川・江の川へ注ぐ清流。 ヤマメ釣り堀ふれあい養魚場。 オオサンショウウオ生息地。 	<ul style="list-style-type: none"> 国土交通省による神戸川源流散策会の実施。 ひいかわ水源の森づくり住民交流会。飯南町民、出雲市民による志津見地区への植樹等。 ヤマメ釣り堀にはシーズン中約 2,000 名来訪。 	<ul style="list-style-type: none"> ひいかわ水源の森づくり住民交流会による、上・下流住民協働の水資源の保全。 東出雲町:商工会を事務局として、恒例イベントとあわせて「国際水鉄砲大会」を開催している。 	<ul style="list-style-type: none"> 渓流釣りのガイド案内。 		

キー資源等項目	評価		地域の現状	既存の取り組み		考えられる新たな取り組み(アイデア)	備考・課題等	プロジェクト化の可能性	
	内	外		町内	連携				
食	ヤマトイモ	+	+	<ul style="list-style-type: none"> ・短期・中期・長期の目標を掲げてブランド化に取り組んでいる。(産業振興ビジョンの重点項目) ・1996年から栽培が始まり、2008年度は22戸の生産農家が約12トン出荷。 ・飯南町生産組合により生産し、東京の高質スーパー等へも出荷している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅赤来高原、憩いの郷衣掛、うぐいす茶屋、ラムネ温泉での創作メニュー提供。 ・「ヤマトイモパン」「ヤマトイモ入高原らめん」「ヤマトイモ焼酎八丁蜻蛉」「ヤマトイモと玄米のお粥」「ヤマトイモ豆腐」「ヤマトイモコロッケ」「ヤマトイモドーナツ」などの商品としても販売されている。 ・高質スーパーなど首都圏でも販売。 ・旧赤来町産業振興課が「やまといも特選調理レシピ」を発行している。 ・さとやまにあでのレシピ紹介。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京など：高質スーパーにて販売。 ・県内のそば屋やまんじゅう屋へも使用。 ・広島企業と商品開発(ふりかけ)。1月から販売。 ・千葉県多古町、群馬県太田市、埼玉県北部等においてもヤマトイモ生産が盛んに行われている。産地によって、産物の形が変わることも特徴。 ・岡山県の旧御津町(現岡山市)では「ツクネイモ」という名称で生産されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤマトイモ鍋。 ・「ヤマトイモバクダン」等ブランド名の検討。 ・レシピ紹介。 ・ヤマトイモを知ってもらうために、まずはヤマトイモドーナツから販売促進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培農家の普及、生産量の拡大。 ・ヤマトイモ商品開発(やまといもドーナツ、やまといもふりかけなど今年度販売開始)。 ・ヤマトイモ販路拡大(町内普及と県外へのPR)。 	<p>産業振興ビジョンに基づき、特にヤマトイモと高原野菜についてはその展開戦略に基づいた取り組みが行われている。また、個別にも新メニューの開発などが行われている。さらに、寒暖の差によって競争力の高い産品となっていると思われる。</p> <p>一方、外部から見た認知度はさほど高くないという現状にある。</p> <p>飯南町産農産物の客観的な評価の整理、販売戦略の検討、重点的に売り出す産品の抽出などをふまえたうえで、中期的な取り組みとしてのプロジェクト化の可能性があると考えられる。</p>
	高原野菜	+	+	<ul style="list-style-type: none"> ・短期・中期・長期の目標を掲げてブランド化に取り組んでいる。(産業振興ビジョンの重点項目) ・パプリカ、トマト、メロン、ほうれん草、なすび、いんげん豆、薬草、わさび、のらぼう菜等。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「高原野菜カレー」など、様々な高原野菜を活用したメニュー開発・提供。 ・なす・いんげん豆・パプリカなどの夏野菜を高質スーパーに向けて出荷している。 ・のらぼう菜を「いーなんの【いい菜っ葉】」として販売 ・飯南町施設園芸研究会による施設園芸のあり方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京など：高質スーパーへ夏野菜を出荷。 ・JAを通しての市場出荷など。 ・高原野菜は長野県などを中心として標高が高い地域において栽培が盛ん。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雪を活用した保存と販売。 ・レシピ紹介。 ・クライנגガルテンにおいて施設園芸体験の受け入れ。 ・いつでも食べられる、おしゃれなカフェの開設。 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業活性化会議にて高原野菜等についてブランディング協議中。 	<p>特に、ヤマトイモと高原野菜のブランド化は、飯南町が推進する最重要施策の1つであり、これを核としたプロジェクト化は、既存施策との整合、継続展開に向けて重要と考えられる。</p> <p>既に、産業活性化ビジョンに基づいて飯南町食材を活用したレシピづくりが行われることとなり、今後はレシピを味わうことができる場など、まず、飯南町の食を味わってもらい、その魅力を感じてもらうための取り組みや、訪問が一度で終わらない、食を通じた仕掛けづくりが必要と考えられる。</p>
	果樹	+	+	<ul style="list-style-type: none"> ・赤来高原観光りんご園にてりんご、ブルーベリーを栽培。 ・H19 赤来高原ぶどうの会設立。メロンの空きハウスを利用して平成16年からぶどう栽培を開始。 ・雲南市・飯南町ピオーネ研究会。 ・りんご、ブルーベリー、ピオーネなど。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャムやジュースの加工品の製造販売。 ・観光果樹園の経営。りんご狩り、ブルーベリー狩りなど。 ・赤来高原ぶどうの会、雲南市・飯南町ピオーネ研究会による「ぶどう栽培講習会」の実施。 ・赤来高原ぶどうの会によるラベル作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雲南市・飯南町ピオーネ研究会による雲南市と連携したピオーネの生産・販売促進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レシピ紹介。 ・いつでも食べられる、おしゃれなカフェの開設。 		
	米	+	+	<ul style="list-style-type: none"> ・米栽培は飯南町基幹産業のひとつ。 ・エコ米栽培。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「飯南町うまい米コンテスト」と称し、飯南高原まつりなどにおいてお米の食べ比べを実施。 ・飯南町産と国産原料をブレンドした雑穀米の開発・販売。 ・エコファーマー認定事業者によるエコ米栽培と普及促進。 		<ul style="list-style-type: none"> ・レシピ紹介。 ・いつでも食べられる、おしゃれなカフェの開設。 	エコ米のメリットの明確化。	
	薬膳料理	+	+	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅赤来高原のレストラン「ローワン」にて薬膳料理(「日替わり薬膳ランチ」)を提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飯南町薬膳料理講習会の開催。 ・道の駅赤来高原での薬膳ランチ提供。 ・森林セラピー食としての開発・提供。 ・薬草木の栽培研究。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安来市でも薬膳料理を提供しているお店がある(「竹葉」)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レシピ紹介。 ・いつでも食べられる、おしゃれなカフェの開設。 	薬草木研究の今後の展開検討。	
	その他	+	+	<ul style="list-style-type: none"> ・一部ワニ(鮫)を食べる風習あり。 ・イノシシ(グランディア赤名峠)。 ・とんぼ漬(JA雲南) 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・さとやまにあでは、飯南町における様々な食に関する情報を随時提供中。 ・いのしし肉まん「飯南いのまん いのっち」。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三次市のスーパーでは、日常的にワニの刺身が販売されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新料理の開発・試食。 ・レシピ紹介。 		

キー資源等項目	評価		地域の現状	既存の取り組み		考えられる新たな取り組み(アイデア)	備考・課題等	プロジェクト化の可能性
	内	外		町内	連携			
農業体験	+	+	<ul style="list-style-type: none"> ・クラインガルテンを中心とした田舎体験・農業体験の実施。 ・酪農への農業体験研修生受け入れ。 ・酒米の田植え体験受け入れ。 ・農業法人による農業体験研修生の受入。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Iターンにより飯南町で酪農を始めた認定就農者が農業体験研修生を受け入れている。 ・島根大学、関西大学等、学生による農業体験の受け入れ。 ・「あかぎ高原の地酒をつくろう会」による酒米田植え・稲刈り体験受け入れ。 ・「田舎ツーリズムの宿 南天」でのたけのこ堀体験、わさび収穫体験などの受け入れ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・島根大学や関西大学などの学生、広島市の家族連れなどを各種体験事業に受け入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の月間契約(都市住民と農家)。 ・とことん町産を追求。 ・食材提供基地。 ・農業体験の充実。 ・自然・温泉・食の連携ツアー(癒しツアー)。 ・アーティストと飯南食材のコラボ。 ・クラインガルテンにおいて施設園芸体験の受け入れ。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流推進するためのコーディネーターが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> クラインガルテンを中心とした農業体験により、町内外の交流が積極的に行われている。こうした動きをさらに促進させるためにも、大学生や飯南町応援団などがクラインガルテンを拠点として様々な交流活動を行うことができる仕組み・体制づくりが求められる。
歴史・文化	+	+	<ul style="list-style-type: none"> ・銀山街道。 ・赤名宿。 ・出雲国風土記。 ・丹塗筋神話・赤穴八幡宮。 ・平家伝説。 ・秋祭り。 ・由来八幡宮。 ・伝統芸能(神楽、囃子)の振興。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・銀山街道ウォーク:飯南町内は赤名宿を歩く。 ・ムラサキ探検隊:現在では絶滅危惧種のムラサキ草を探す。出雲国風土記では飯南町に自生していたとの記載あり。 ・平家伝説を伝える遊那御前・程原入道の墓。 ・玉依姫等を祭神とする赤穴八幡宮。 ・上赤名自治振興協議会による丹塗筋神話を伝える看板の作成・設置。 ・神事の際の囃子、神楽伝統芸能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出雲国風土記。 ・斐伊川を通じたヤマタノオロチ伝説。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民による資源の掘り起こしのためのまちあるきイベント。 ・語り部の養成。 ・近隣市町との連携による伝統芸能大会。 	<ul style="list-style-type: none"> 石見銀山遺跡の世界遺産登録により「銀山街道」の認知度は高いと考えられる。一方、秋祭りに代表される飯南町固有の文化についてはその認知度は低い状況にある。地域資源の発掘・整理による総合的な活用方策を検討することで、個別の取り組みに活用できるとともに、より強力で魅力的な情報発信ツールとしての活用も期待される。 	
人材発掘・育成	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化。 ・リーダー塾など、町内の人材育成に向けた取り組みを実施中。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「飯南町の輝く人を探せ(突撃レポート)」による人材発掘・発信。 ・リーダー塾の開催による人材育成。 ・飯南町応援団の募集。Web上から誰でも簡単に登録できる(現在84名)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークづくり。 ・共有イベントの開催(連携強化)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飯南町の魅力や歴史に詳しい高齢者を紹介するおばあちゃん図鑑の作成。 ・地域づくり交流の実践(島大 地域・産業)。 ・町内若手有志による勉強会開催。 ・飯南町応援団との交流会実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 若者の地域づくりへの参加が消極的。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域内人材育成のため、「リーダー塾」を開催するなど、具体的な取り組みが始まったところである。今後、取り組みの継続・発展による町内外から飯南町を支える人材を育成することが求められる。また、アクションプランとあわせて、リーダー塾での検討事項を積極的に実践していくことも重要となる。
情報発信	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・さとやまにあを中心とした積極的な情報発信を展開中。 ・島根ふるさとフェアへのブース出店。 ・ナチュラルライフフェア(H21.6.6タウンプラザ):飯南町産品の販売、実演販売など、飯南の自然に囲まれたナチュラルライフを体験できるイベントを開催。 ・各種イベントへの参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPさとまにあの運営、スタッフ2名の部口グ形式による閲覧者との双方向型情報発信。 ・島根県飯南町オンラインショップ(さとやまにあ商店)の運営。 ・高質スーパー等に出荷する産品の袋に「生命地域マーク」をプリント。 ・ヤマトイモの袋にカーボンフットプリント。 ・東京のほんばし島根館においてヤマトイモ、ヤマトイモドーナツの試験販売。 ・おしごと戦隊イソガレンジャー飯南町をPRするご当地ヒーロー。商工会青年部所属の16名により、地元の祭りやイベントなどに登場し、「秘密結社ネムイナー」と戦う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広島牛田商店街、吉島、東京の高質スーパー、その他各種島根フェア。 ・東京での飯南町応援交流会開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域情報発信の統一。 ・飯南、赤名、頓原、来島など、従来からの地名の活用。 ・道の駅トレギャラリー、客室ギャラリー。 ・ラッピングバス。 ・交通の利便性強調(90分圏域)。 ・ヒッチハイカー対応。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者ニーズとのマッチング。 商品数の増加。 	<ul style="list-style-type: none"> 他地域に比べ、里山コミッションを中心としたホームページによる情報発信は充実している。 一方、町外から見た飯南町のイメージは非常に曖昧であり、PR対象となる年齢層やターゲット地域などをより戦略的に検討し、充実したPRを継続的に行うことが求められる。
基盤整備等	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者向け生活支援サービス社会実験(地域経営推進事業)。 ・健康ないいなん21。 ・診療体制の充実 県民の森研修館の活用計画。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家住宅・定住対策。(空き家バンク・HPあり)。 ・子育て支援体制づくり。 ・高齢者介護支援体制づくり。 ・地域生活支援体制づくり。 ・地域まるごとサービス会社の設立。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高野町との連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の維持(バス交通など)。 ・国道54号等の道路改良(安全・快適)。 ・線形改良、歩道設置、景観整備、道路標識改良。 ・高野IC線の整備。 		<ul style="list-style-type: none"> 54号沿線を活用した、住民主体の景観修景など、短期的なプロジェクト化の可能性が認められる。 また、尾道松江線の整備を見越した高野ICアクセス線の整備など、中長期的に検討すべき項目が挙げられる。

・飯南町 国道 54 号活性化アクションプラン

- 1 . アクションプランの基本的な考え方

委員会及び、まちづくりトークにおける検討結果を踏まえて、アクションプランの基本的な考え方を以下に整理します。

アクションプランの基本的な考え方

既存施策の更なる推進と新たなアイデアの実践・検討

本町の地域資源がもつ多くの魅力や、抱えている課題、また、魅力向上・課題解決に向けて現在進められている取り組みについては、委員会やまちづくりトークにおける検討結果と整合しており、引き続き積極的に推進していくことが求められます。

また、アクションプラン策定過程においては、地域資源を活用した、より多くの魅力的なアイデアが出されました。

今後は、これらのアイデアに基づいたアクションプランを町内の各主体が連携して取り組むとともに、すぐにはプランとして実行不可能なアイデアを「町内外住民が求める、飯南町をより魅力的なまちにするための重要な要素」と位置づけ、実現に向けた検討を継続的に行います。

里山コミッションによる取り組み推進コーディネート機能の強化

既存施策の推進や、新たなアイデアの実現に向けては、これまで通り、里山コミッションのまちづくり全般に関するコーディネート機能が極めて重要となります。

人員の増強や運営費の強化、またはまちづくり会社への移行など組織体制の見直しを含めて、里山コミッションのコーディネート機能強化を目指すことで、アクションプランの実現にも寄与します。

町民主体の取り組み推進と部局横断的な行政支援

まちづくりを推進する上での主役は、町民であり、また、外部から本町を訪れる人たちです。行政は、里山コミッションと連携しながら、町民や来訪者が積極的なまちづくりに取り組むことができるよう支援します。特に、いわゆる「縦割り」の行政運営を見直し、庁内関連部局が横断的に、住民ニーズに対応するような仕組みづくりを目指します。

町内住民と町外住民の交流促進

本町は、高原が育む食や豊かな自然など、多くの魅力を有しています。しかし、身近であるがゆえに、町民がその魅力に気付いていない場合もあります。15 ページに整理した町内外住民の地域資源に対する評価からも、同じ資源に対して町内と町外の住民では、その評価が分かれているものがありました。

町内交流を促進することはもちろん、既存の町外との連携や、委員会、まちづくりトークにおいて構築された町内外ネットワークを活用して、町民が町外へ出かけて積極的な交流を図ることで、飯南町を見直し、地域に誇りを持つことができるきっかけをつくることを目指します。

以上の基本的な考え方に基づき、下図のイメージでアクションプランを推進します。

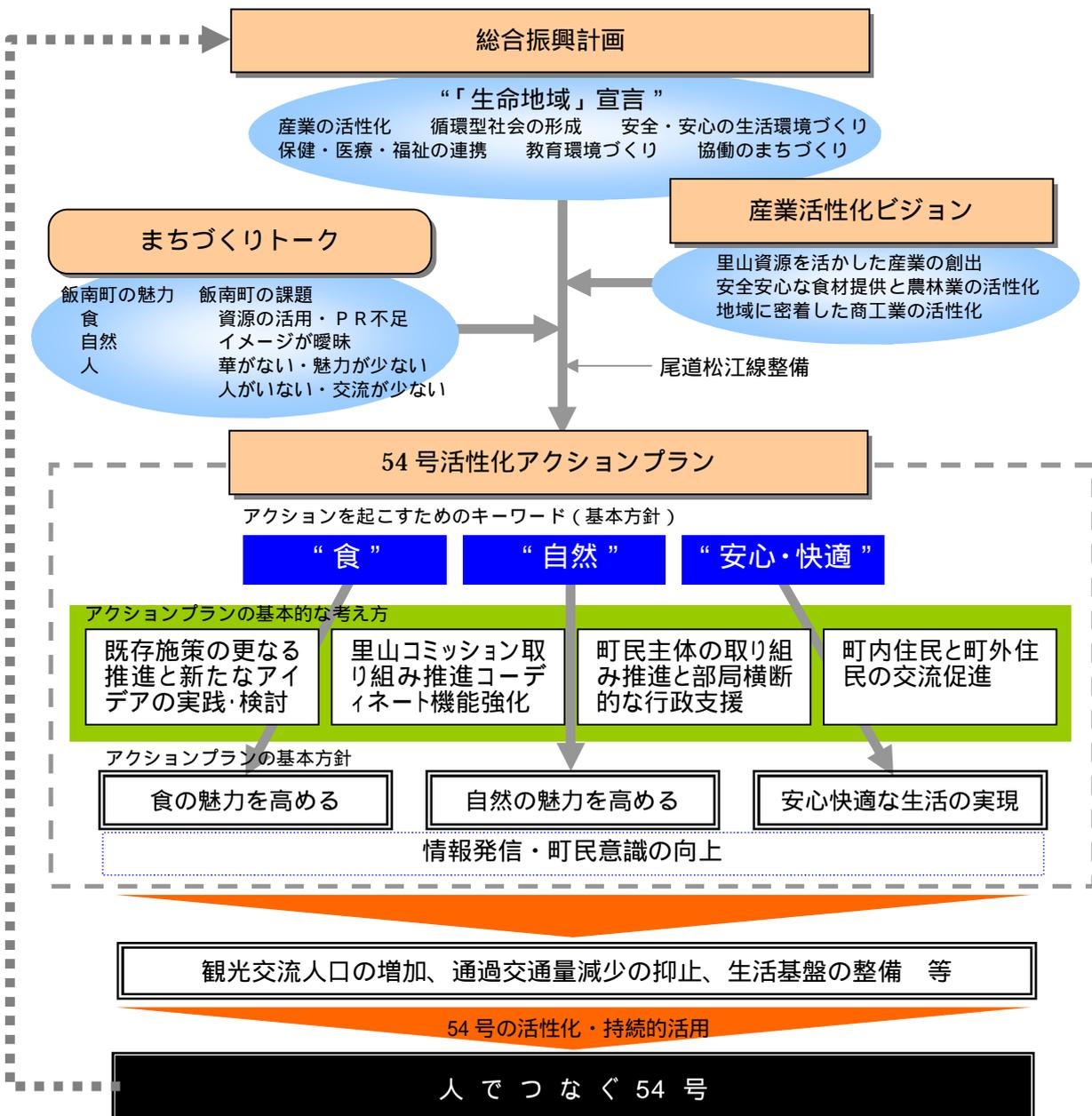
町内での交流、町外との交流、町民、里山コミッション、事業者、行政の連携という、人と人とのつながりを活発に行うことで、アクションプランの基本方針を実践し、元気で活力あふれる「生命地域 飯南町」の実現を目指します。

本町の活性化は、その大動脈である国道 54 号を介して人と人をつなぐことであることから、アクションプラン推進のキャッチフレーズを「人をつなぐ 54 号」と位置づけ、その持続的活用を図ります。

アクションプラン推進のキャッチフレーズ

人をつなぐ 54 号

54 号アクションプランの位置づけイメージ



- 2 . 基本方針

54号を“人であつなぎ”、その持続的活用及び本町の活性化を図るため、アクションプランは以下の基本方針に基づいて実施します。

“食”の魅力を高める

本町の気候によって作り出される、ヤマトイモや高原野菜、果樹などの「食」資源について、その魅力を高めるための取り組みを行います。

ヤマトイモや高原野菜など、既に本町が重点的にブランド化に向けた取り組みを進めている産品を中心に、消費者がその魅力に気付き、生産者・販売者が生産物に誇りを持てる取り組みや、飯南町産品を身近に感じてもらえる取り組みなどを行います。

“自然”の魅力を高める

豊かな自然資源を守り、活用するとともに、自然資源を活用した取り組みとしての森林セラピーや温泉などの有効活用方法を探ること等により、その魅力を高める取り組みを行います。

里山の管理や除雪など、飯南町民にとっては大きな課題ともなりうる山林や雪が、町外住民にとっては魅力的な地域資源であることに着目した取り組みや、まず、飯南町民が自分たちの暮らす地域の資源について再確認する取り組みなどを行います。

“安心・快適”な飯南町を実現する

本町に暮らす全ての主体が、安心して快適な生活が実現できる取り組みを行います。

安心・快適な飯南町を実現するための取り組みの主役は町民であり、全ての町民が主体的に地域づくりに関わることができる場をつくり、行動を起こすときに実際に機能する自治組織等コミュニティ間相互のネットワークづくりを行います。

また、尾道松江線整備を見越した、国道54号に対する重要性を再確認するための取り組みを行います。

効果的な情報発信

里山コミッションを中心に実施している情報発信が、より効果的となる取り組みを行います。特に、生産者と消費者のネットワーク作りや、まちづくりトークメンバーによる積極的な取り組みへの参加、外部PRなど、これまでになかった要素を盛り込むことで、少しずつでも効果が得られる情報発信の取り組みを目指します。

町民意識の向上（地域への誇り・愛着の醸成）

町民が、より自分たちが暮らす地域への誇りや愛着を持つことができるようになる取り組みを行います。

- 3 . アクションプランの推進体制

アクションプランは、里山コミッションと、平成 22 年度設置予定の飯南町産業振興課が中心となって牽引します。両者が協働で各実施主体の取り組みを支援・コーディネートします。

まずは、町内の各主体が連携し、実行できるものから取り組みを始め、その他の取り組みについても随時関係者との協議をふまえて実現に向けた検討、新たな取り組みの可能性検討を継続的に行います。その際、並行して検討が進められている「産業活性化会議」での議論との整合性に留意します。

実現に向けては、産業振興課を中心とした庁内関連部局の横断的な連携により、アクションプランに掲げる取り組みの推進を支援します。

また、必要に応じて、アクションプラン実行に向けた協議の場を設け、町内の各主体が、積極的にアクションプラン推進、ひいてはまちづくり全般に関する意見を気軽に発言できる場を設けることで、アクションプランの確実な推進を担保します。

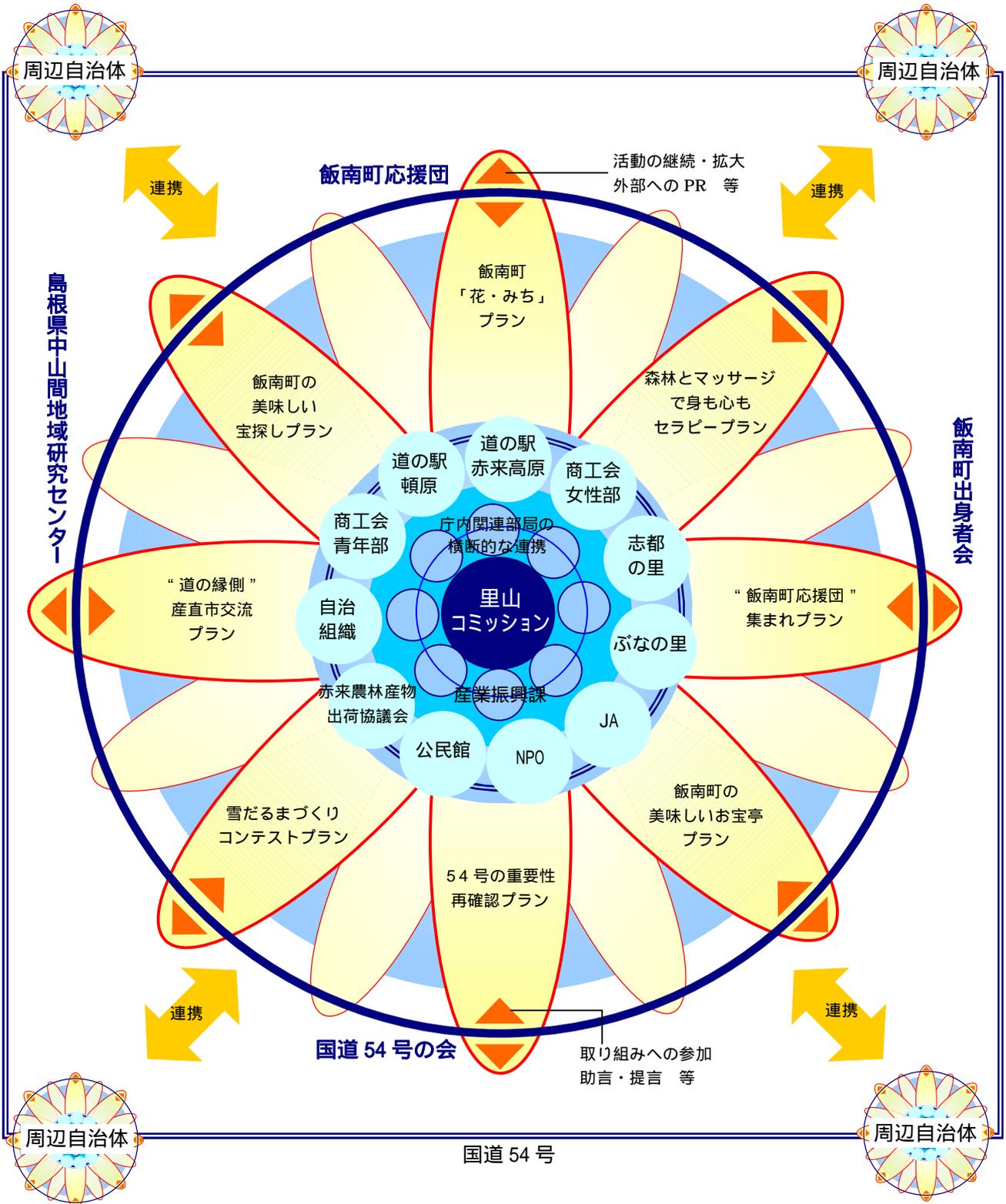
「国道 54 号の持続的活用を考える飯南の会」やまちづくりトークメンバーも登録した「飯南町応援団」、島根県中山間地域研究センターは、これらの取り組みを外部からサポートし、積極的にまちづくりの取り組みに参加するとともに、外部への P R、必要な助言等を行います。

また、国道 54 号の会は、取り組みの進捗状況を確認するとともに、取り組みの評価や課題の抽出、未実施の取り組みの実現に向けた提言などにより里山コミッションへ助言を行います。

将来的には、国道 54 号で結ばれる島根県・広島県内の自治体と連携しながら、国道 54 号の持続的活用に向けた取り組みを、協働で行うことを目指します。既に、周辺自治体でも尾道松江線の整備を意識した国道 54 号のあり方に対する検討が始められているところですが、特に、本町は島根県と広島県の境であり国道 54 号のほぼ中間地点に位置するという立地条件からも、こうした広域での自治体が連携した取り組みを、主導的な立場として牽引します。「(仮)国道 54 号持続的活用推進協議会」など、住民・事業者・行政を国道 54 号でつなく組織の立ち上げに向けた調整や具体的な連携の取り組み実践が期待されます。

里山コミッションについては、平成 22 年度から、その運営体制を一新することとしています。里山コミッションの既存業務を民間委託することなどにより、民間事業者のノウハウを活かした、より地域密着型のまちづくり実現を目指していきます。詳細な運営体制については、平成 22 年度中に検討しながら、最適な形を探っていきます。したがって、里山コミッションの体制が明確になるまではアクションプランの推進は産業振興課が中心となって担います。里山コミッションの新体制移行後は、産業振興課との連携のもと、アクションプランの推進を協働で行います。

アクションプラン推進体制イメージ



- 4 . アクションプラン

1 . 「食」の魅力を高める」アクションプラン

飯南町美味しい宝探しプラン

推進主体：道の駅等

飯南町の食の魅力を感じてもらうため、町内2つの道の駅において食事をした方に特典を提供することで継続訪問のきっかけをつくり、そのたびに新たな飯南町の美味しい「お宝」を発見してもらうプランです。

ポイント

飯南町の食は、ヤマトイモや高原野菜をはじめとして、多種多様で特徴的なものが数多くあります。また、寒暖の差が大きいことから作物の糖度が高くなるなど、その品質についても良いものが生産されています。

一方、その魅力が特に町外の方に伝わっておらず、一定の理解を得るには至っていないという課題が存在しています。

そこで、まずは飯南町の食を堪能してもらうためのきっかけとして、町内2つの道の駅による「飯南町お宝探しスタンプラリー」を実施します。スタンプラリー形式とすることで、一度の食事にとどまらず、継続して飯南町を訪問するための仕組みとします。将来的には、道の駅のみならず、飯南町内において飯南町食材を利用した食事を提供している店舗等の参加も目指します。

また、飯南町が特に力を入れてブランド化に取り組んでいるヤマトイモについては、まずヤマトイモを知ってもらうためのツールとしてヤマトイモドーナツに着目し、お祭りなどイベント時に訪れる人たちに積極的に販売を促進するよう努めます。



薬膳カレー

『飯南町お宝探しスタンプラリー』

- ・道の駅における食事で使用できる共通スタンプカードを作成。
- ・スタンプは食事の金額ごとに押してもらえる仕組みとする。
- ・全てのスタンプがたまったら、両道の駅共通のお食事券をプレゼント。

検証の指標 スタンプカード発行枚数。
食事の数量。お食事券発行枚数。

『ヤマトイモを知るにはヤマトイモドーナツから』

- ・町内でのイベントではヤマトイモドーナツの積極的な販促を行う。
- ・特に町外住民には積極的にPRする。
- ・飯南町内各所での販売に向けた検討・支援を行う。

検証の指標 ヤマトイモドーナツ販売数。

“道の縁側”産直市交流プラン

推進主体：ぶなの里・赤来農林産物出荷協議会等

道の駅 頓原に併設されている産直市「青空市 ぶなの里」では、飯南町産の新鮮野菜、加工品、工芸品などが多数販売されており、遠方からのお客さんも獲得しています。また、平成22年4月には、道の駅赤来高原にも産直市が隣接して設置されます。こうした町内外交流の拠点となりつつある産直市において生産者と消費者の相互交流をさらに促進し、産直市が“道の縁側”のように、交流あふれる場所となることを目指すプランです。

ポイント

「ぶなの里」では、飯南町産の新鮮野菜だけでなく、加工品や工芸品などを販売し、多くの方から好評を得ていることから、飯南町における町内外交流の1つの拠点となっています。

そこで、両道の駅における産直市の消費者から、購入した商品に関するメッセージをいただき、町内外の交流をさらに促進するためのきっかけとします。

自ら育てた産品に対する評価をもらうことは、生産者側の作物生産に対する意欲の向上やより良いものを提供するための継続的改善につながるとともに、飯南町産品を生産していることに対する誇りや愛着の醸成につながることも期待されます。

また、例えば将来的にはメッセージをいただいた方への生産者からのお手紙送付や、産直市における生産者からのメッセージ貼り付けなど、町内外双方向での交流がさらに深まる取り組みの実施について、関係者と協議したうえで、実現を目指します。



青空市 ぶなの里

『消費者一言メッセージの募集』

- ・商品購入者からのメッセージを募集する。
- ・購入商品、料理方法、自分や家族の感想などを、道の駅やさとやまにあまでメールやFAXで送っていただく。
- ・送っていただいた方の中から、1ヶ月に1名、抽選で産直市でのお買い物券を進呈。
- ・生産者の方に必ず感想を伝える。

検証の指標 消費者から寄せられる意見の数。

『生産者一言メッセージの発信』

- ・産直市で販売する商品のそばに、生産者の一言メッセージを貼り付ける。
- ・生産物に対する思いや消費者へのメッセージを書いてもらい、販促ツールとして活用。
- ・メッセージをくれた方に生産者からお手紙を書く。

検証の指標 消費者から寄せられる意見の数。

飯南町には、美味しいお宝がたくさんあります。また、そのお宝の魅力をさらにアップさせるためのレシピづくりが行われています。町内の既存イベントとあわせて、臨時の「飯南町美味しいお宝亭」を出店してレシピに掲載される新たなお宝を味わうことのできる場を創出するプランです。

ポイント

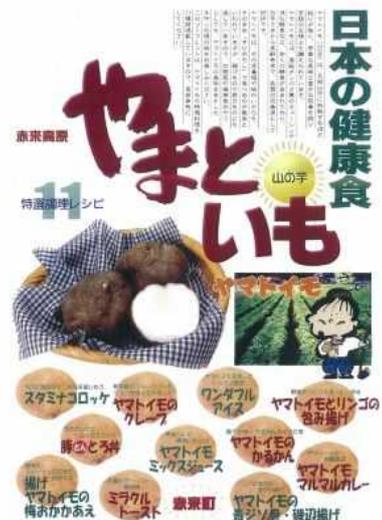
飯南町では、ヤマトイモや高原野菜などの食のブランド化を推進するため、「飯南町産業活性化ビジョン」に基づいた各種施策を展開中です。その一環として、飯南町食材を活かしたレシピ作りが検討されており、平成 22 年度中に作成される予定です。

そこで、既存の町内イベントと絡めて、レシピに登場する料理を実際に作って食べてみる機会を設けます。「飯南町美味しいお宝亭」と名づけたお店を出店し、訪れる人たちにふるまい、飯南町の食に触れる機会を設けます。

それらに対する批評を、飯南町応援団などイベント参加者が行います。

こうした取り組みを通じて、レシピ集に掲載されるメニューに対する評価が得られるとともに、町内交流、町内外交流が促進されます。

飯南町応援団には、食べた料理の評価を積極的に外部に発信してもらうことで、飯南町の食の PR 及び新たなメニューの宣伝につながることを期待されます。



やまといもレシピ（旧赤来町作成）

『飯南町美味しいお宝亭の出店』

- ・既存の町内イベントに絡めた、「飯南町美味しいお宝亭」の出店。
- ・町内外有志による実際の料理づくりと来訪者へのふるまい。
- ・試食イベントの実施を飯南町応援団等に PR。
- ・飯南町応援団等来訪者は、メニューを試食してその感想を述べる。
- ・食材費等を考慮して、試食者は参加費を支払う。
- ・飯南町の食を味わうことができるイベントにおいて、飯南町応援団などから評価をもらう仕組みを定着させ、継続的改善を図ることを目指す。
- ・レシピ掲載メニューの道の駅等での提供など、「飯南町美味しいお宝亭」の常設を目指した検討を行う。

検証の指標 試食会参加者数（つくる側、試食する側）、
試食者からの評価。

2. 「自然」の魅力を高める」アクションプラン

森林とマッサージで身も心もセラピープラン

推進主体：里山コミッション等

森林セラピーは、ヤマトイモや高原野菜とあわせて飯南町が重点的にその利活用を推進しています。その森林セラピーにおいて、森林からの癒しの提供と合わせて、マッサージサービスを提供することで、「身も心も」癒してもらうプランです。

ポイント

森林セラピーでは、飯南町が誇る地域資源である森林を、医学的根拠に基づいた「癒し」の場として、森林ウォーキングや飯南町産食材を使った食事などを組み合わせた1泊2日もしくは2泊3日のメニューとして提供しています。

利用者からの反応は上々である一方で、当初主要ターゲットとしていた、福利厚生に活用する企業との契約がなかなか進まないことや、訪問者数の増加傾向が鈍く、その良さが伝わらないことなどが課題として挙げられています。

そこで、森林セラピーのオプションメニューとしてマッサージを加えて、利用者数の増加を図ります。マッサージも、医学的根拠に基づいて体の疲れをとる＝癒しを提供する方法のひとつであり、森林セラピーの基本概念と整合します。特に、広島や関西方面の女性の来訪が期待されると考えられます。

マッサージ師の確保や必要な設備の整備など、導入に向けては様々な課題が存在するため、里山コミッションを中心に、将来的な実施に向けての検討を行います。



森林セラピー（森林ウォーキング）

『マッサージメニュー追加に向けた検討』

- ・ 広島・関西方面における需要調査の実施。
- ・ 導入費用、運営費用、価格設定、来訪者数見込みなど、費用対効果の検証。
- ・ 近隣鍼灸院、整体院との連携可能性の検討。

検証の指標 導入に向けた検討の状況。

志津見地区では、「志都の里 クラインガルテン」を中心に、豊かな自然資源を活用した市民農園、季節の花イベント、植樹などの活動を行っています。クラインガルテンを中心として、島根大学の学生等町外の人材と、町内の人材が交流する場を創出するプランです。

ポイント

飯南町志津見地区は、町内外交流の拠点となりつつある地域です。

クラインガルテンを中心に、地元食材の提供・加工品販売を行う「うぐいす茶屋」、ポピー祭やコスモス祭など季節のイベントの舞台となる「東三瓶フラワーバレー」、やまめの釣りが楽しめる「やまめの溪」などが立地しています。

そこで、クラインガルテン敷地内に設けているクラブハウスを町外の方も活用できる交流拠点とし、志津見地区の町内外交流拠点としての位置づけをさらに高めることを目指します。

島根大学の学生や飯南町応援団など、外部の方にクラブハウスを利用したイベント等の活用を幅広く呼びかけ、利用にあたっては農業体験や植樹活動への参加など、地元住民との交流をセットで提供します。

また、平成 22 年度からは、地域おこし協力隊制度によって「飯南町の地域の担い手となって地域の元気づくりに協力してくれる」人材を志津見地区に配置することにしており、この協力隊員が外部人材と町内住民の橋渡し役となってコーディネートを行います。

まずは、志都の里クラインガルテンと協力隊員が交流イベントを立案し、交流の取り組みを行ったうえで、将来的には外部から交流の取り組みに関するアイデアを受け付けることができるような関係を構築することで志津見地区における町内外交流を継続的に推進していきます。



クラインガルテン農業体験

『クラインガルテンクラブハウスの“溜まり場”化』

- ・クラブハウスを島根大学の学生等外部人材が活用できる拠点と位置づける。
- ・地域おこし協力隊による町内外交流の取り組みの立案と参加募集。

【町内外交流の取り組みの例】

- ・飯南町応援団の意見交換会開催（アクションプランに基づいて実施している取り組みを体験してもらい、その後クラブハウスで意見交換会、交流会を実施）
- ・植樹活動や農業体験への参加。
- ・うぐいす茶屋ややまめの溪のお手伝い・アルバイト など。

検証の指標 交流イベント立案・検討状況。
 クラブハウス利用者数。
 交流イベント開催状況（開催回数、参加者数）

雪だるまづくりコンテストプラン

推進主体：飯南町商工会青年部等

飯南町は、年間降雪量が、札幌市を上回る場合があるほど多くの雪が降る地域であり、この雪を地域間交流に活用するプランです。既に雪を活用した取り組みを検討している地域づくりリーダー塾メンバー、雪だるま販売に取り組む町内事業者、自治組織等と連携して取り組みます。

ポイント

町民にとって、雪は生活に直結するものであり、雪かきなどの負担が生じるものでもあります。一方、雪の少ない山陽地域の住民にとっては、ある種「うらやましい」と感じられる資源であり、外部からの集客に活用できうるものです。既に、県民の森におけるスノーシュー体験やかまくらづくりイベントなど雪の活用が行われています。

雪を活用して、町内外のだれでも気軽に参加できる取り組みとして、雪だるまづくりコンテストを実施します。

参加者相互が、全員の作成した雪だるまを採点して、最優秀雪だるまは道の駅に設置するなどしてPRに活用します。

雪だるまコンテストの実施を通して、地域内交流の促進や、地域外からの来訪者獲得、来訪者への飯南町PR効果が期待されます。



雪（かんじき体験の様子）

『雪だるまづくりコンテストの実施』

- ・ スキー場や道の駅等において、だれもが参加できる雪だるまづくりコンテストを実施。
- ・ 最優秀作品は、作成者の名前とともに道の駅等へ設置。

検証の指標 コンテストへの参加者数。

3. 「安心・快適」な飯南町を実現する」アクションプラン

飯南町「花・みち」プラン

推進主体：住民自治組織等

花植えや花壇整備などを通じて、自治組織等地域コミュニティ間の連携を深めながら、飯南町を訪れる人を歓迎する環境を創りだすプランです。

ポイント

飯南町では、町民が自ら居住する地域のまちづくりについて、自分たちで考えながら進めていくことができるように、住民自治組織を設置しています。

自治組織単位で除雪作業や地域住民送迎サービスを開始するなど、積極的にまちづくりを進めている自治組織が誕生しています。

一方、必ずしも全ての自治組織が積極的な活動を展開しているとはいえ、高齢化や地理的不利条件などにより、十分な活動は行われていません。



花壇

そこで、老若男女を問わず参加できる取り組みとして、公共の美化を目的に、飯南町が花の種や苗を配布している「わがまちは美しく推進事業」へ自治組織等の単位で参加します。同事業は、平成18年度から開始し、平成22年2月15日現在で延22団体が参加しています。

自治組織などの地域コミュニティ単位で参加することにより、町内の交流を深めるとともに、沿道の美化活動によって花で彩られた道を整備することで、飯南町を訪れる人たちをおもてなしする環境を創りだすことが可能です。

また、その他にも沿道美化・清掃活動への参加方法として国土交通省の「国道54号クリーンアップ作戦」、鳥根県の「ハートフルロードしまね」などがあり、これらへの参加により自分たちが整備した花壇や道路などの写真コンテストを行います。

『「わがまちは美しく推進事業」等沿道美化活動への参加』

- ・地域コミュニティ等の単位で「わがまちは美しく推進事業」等の活動に参加。
- ・参加組織の規模に見合った沿道美化活動の実施。

検証の指標 「わがまちは美しく推進事業」参加団体数。
「国道54号クリーンアップ作戦」参加者数。
「ハートフルロードしまね」参加団体数。

『花壇フォトコンテスト』

- ・沿道美化活動参加組織対抗での花壇フォトコンテスト。
- ・道の駅のトイレをギャラリーに見立ててフォトコンテスト応募者の写真を展示し、訪問者に飯南町民の取り組みをPRする。

検証の指標 コンテスト参加団体数。

尾道松江線が整備されることで、国道54号の交通量は激減することが予測されるため、飯南町民にとっての54号の重要性を再確認するプランです。

ポイント

平成25年ごろに整備される予定の尾道松江線が開通することで、飯南町の大動脈である国道54号は、交通量が激減すると予測されています。

アクションプランを通じて、「人でつなぐ54号」を目指した取り組みを推進するとともに、道路としての54号が、飯南町民にとって生活道路として極めて重要であることを再確認します。また、適正な維持管理の継続、本町の入り口となる赤名・晴雲両トンネルの老朽化に伴う改修等の整備、最も近いインターチェンジ



現在の国道54号（赤名峠）

となる「高野IC」とのアクセス線整備等は、「国道54号の持続的活用」という観点から本町にとって欠かせない要素です。国道54号の道路関連施設整備は、道路管理者である国土交通省や島根県の協力が不可欠であり、本町としては、国道54号のハード面での課題や町民ニーズなどを整理し、より積極的な国道54号の利活用方を提案するなど、両者が役割分担しながら、協働で進めていくことができるように努めます。

飯南町では、平成22年度に総合振興計画の見直しを予定しており、今後の尾道松江線整備をみすえたまちづくりの方向性を見直すこととしています。これとあわせて、国道54号の重要性に関する町民意識を把握し、ハード面での54号の活性化を目指します。

『総合振興計画見直し時における尾道松江線の位置づけの明確化』

- ・平成22年度見直し予定の総合振興計画において、飯南町のまちづくりに対する尾道松江線の位置づけを明確に示す。
- ・アクションプランとの整合を図りながら、尾道松江線整備を見据えた飯南町のまちづくりの方向性を示す。
- ・国土交通省から、尾道松江線整備に関する情報を随時入手する。

検証の指標 総合振興計画見直しにおける尾道松江線整備に関連する検討状況

『尾道松江線及び国道54号に関する町民意識の確認』

- ・総合振興計画策定過程における町民アンケートやワークショップなどを通じて、町民の国道54号に対する認識や、尾道松江線整備に関する意識を把握する。
- ・町民の道路整備等ハード面でのニーズに基づいた道路整備計画の作成、国土交通省や島根県との調整を行う。

検証の指標 町民の尾道松江線及び国道54号に関する意識調査実施状況

- 5 . アクションプランの推進と進捗管理

1 . 里山コミッション・飯南町産業振興課による取り組みの牽引

アクションプランに掲げる各種取り組みは、里山コミッションと飯南町産業振興課が実施に向けて町内の各主体を牽引します。両者の連携により、取り組みの推進主体となりうる団体等との協議を行い、実際の取り組みに向けた課題の整理や準備を行います。

まずは実際に取り組むことができるものから各主体間の調整を行い、実施に向けたさらなる検討が必要な取り組みについては、両者が主体となって、関係する町内団体等とのコーディネートを行います。

2 . 「国道 54 号の持続的活用を考える飯南の会」による進捗管理

アクションプランの進捗管理は、「国道 54 号の持続的活用を考える飯南の会(委員会)」が、それぞれの「検証の指標」に基づいて行います。

里山コミッション・飯南町産業振興課を中心とした検討状況や、アクションプランに掲げられている様々な取り組みの実行状況・成果・検討状況・課題等を確認し、必要に応じて課題の抽出及び解決策の検討を行います。

平成 22 年度中は、既存の町内イベント開催時とあわせながら、2 回の開催を予定しています。また、尾道松江線整備の前後において、アクションプランの見直しを行います。

3 . 「飯南町まちづくりトーク(飯南町応援団)」による定期的な町内外交流の継続

アクションプランの策定過程を通じて実施した 2 回の「飯南町まちづくりトーク」では、のべ 62 人が参加し、飯南町の魅力を活かす方法など、アクションプランに掲げるプランやアイデアについての検討を行いました。

参加した多くの方が、まちづくりトークへの参加を機に「飯南町応援団」に登録され、第 2 回まちづくりトークでは、参加者から今後も引き続き町内外住民が集まって、飯南町のまちづくりについて検討する場を開催してほしい旨の発言がありました。

今回構築された、こうした町内外のネットワークを、今後も引き続き継続し、町内外交流の場を定期的に設けます。

まちづくりトークメンバー(飯南町応援団)は、こうした場に、より多くの周囲の方を巻き込んで参加することで、飯南町応援団の一員として、アクションプランやその他の施策・取り組みを PR する役割を担います。

平成 22 年度中は、既存の町内イベント開催時とあわせながら 2 回の開催を予定しています。

また、6 つの飯南町出身者会(広島頓原・広島赤来・関西頓原・近畿赤来・松江頓原・東京ふるさと)とも連携をとりながら、相互の交流を図ります。

4 . アクションプランの見直し

先述のとおり、アクションプランの進捗管理については、各プランに掲げた「検証の指標」による客観的なデータに基づき、委員会が中心となって行います。また、随時、産業振興課から実施主体となる町内各団体、参加者となる飯南町応援団等からのヒアリングなどを実施し、進捗状況の確認を補完します。

これらを踏まえて、必要に応じてアクションプランの見直しを行います。特に、尾道松江線が開通する平成 25 年前後には、進捗状況を確実に確認し、取り組みが進んでいないものについては、原因の分析及び解決に向けた検討を行います。

